

特別展 guse ars exhibition PATTERN SEED

グセアルス展 パターン・シード
～漂う未来模様～



河川敷や海岸などに流れ着いた陶磁器のかけらを使って、新たな模様を創作する2人組のアーティスト「guse ars(グセアルス)」。当館の開館前には、イベントとして「washed pattern TAJIMI～欠片から生まれる未来の模様～」(2015年)を開催いたしました。

今回の特別展「パターン・シード」では、グセアルスが生み出す模様(パターン)と、それぞれの模様の種子(シード)となった陶磁器片とを展示。さらに併設する形で近代の「笠原茶碗」や多治見市が所蔵する陶磁器片等を展示します。これは、タイル製造が始まる前の時代の多治見と、グセアルスの「未来の模様」をつなぐ試みです。「『シード』とは、それぞれの模様の子孫であり種子であり、陶片そのものでもある。種子が次の世代へ子孫を残していくように、陶片も未来に続く模様の子孫を繋いでいく。」と述べるグセアルス。過去の陶片と現在・未来の模様とタイルが行きかう不思議な時空間へお越しください。

見どころ

1. 2人組のアーティストユニット「guse ars(グセアルス)」が、漂流した陶磁器の欠片の模様から新たに生み出した模様の世界。
2. その模様を使って、多治見のタイル工場とコラボレーションしたタイルも展示。このタイルが将来欠片になることがあれば、また新たな模様の種ができるというコンセプト。
3. 美濃焼ミュージアムや文化財保護センターから借用した資料や当館の収蔵品により、「笠原茶碗」や染付を、欠片の元の形として紹介。
4. 昔の陶磁の模様と未来へとつながっていく新しい模様の競演



会期 2019年2月2日(土)～5月12日(日)

休館 月曜日(祝日の場合は翌平日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会場 多治見市モザイクタイルミュージアム3Fギャラリー

主催 多治見市モザイクタイルミュージアム

企画協力・デザイン guse ars

後援 多治見市教育委員会

協力 多治見市美濃焼ミュージアム

出品 20～30点

◆関連企画 ワークショップ(2日間) 要申込
詳しくはホームページやフェイスブックでご案内します。

◆同時開催 「HOMETOWN～笠原茶碗と染付模様」

会期 平成31年1月29日(火)～平成31年5月19日(日)

お問い合わせ先

多治見市モザイクタイルミュージアム 担当 村山

〒507-0901 多治見市笠原町2082-5

TEL: 0572-43-5101/FAX: 0572-43-5114 URL: <http://mosaictile-museum.jp>



guse ars

村橋貴博・岩瀬敬美による2人組のアートプロジェクトとして2010年から活動。海や川に漂着する陶片を拾い集め、それを発想の出発点として作品制作、発表を続ける。

※広報・取材をお願いいたします※